様式２

審議会等会議録

審議会等の名称	平成２７年度第２回山口市立図書館協議会
開催日時	平成２７年１０月３０日（金曜日）１５：００～１６：３０
開催場所	山口市　多目的室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	安光会長、糸長委員、大野委員、重枝委員、田坂委員、田澤委員、原田委員、藤川委員、児玉委員
欠席者	吉村副会長、中村委員、岡田委員
事務局	中央図書館長、小郡図書館長、秋穂図書館長、阿知須図書館長、徳地図書館長、阿東図書館長、中央図書館館長同格、中央図書館管理担当主幹、中央図書館サービス担当主幹
議題	１　報告事項 （１）平成２７年度山口市図書館事業中間報告
内容	**〇事務局** ただいまより平成２７年度第２回の山口市立図書館協議会を開催いたします。 最初に、中央図書館館長より御挨拶いたします。 **〇事務局（中央図書館長）** 皆さん、こんにちは。本日は、特に諮問事項はございません。平成２７年度事業の中間報告を行いまして、それにつきまして委員の方からの御意見や御提言をいただければと考えています。どうぞよろしくお願いをいたします。 **〇会長** 皆様こんにちは。よろしくお願いいたします。 それでは、報告事項として、平成２７年度山口市立図書館事業中間報告を、事務局からお願いします。 **〇事務局** それでは資料、１ページから５ページまでを御説明いたします。これに各地域館、中央館の図書館まつりのチラシをつけておりますが、この資料を参考に御説明させていただきます。 まず、今年度の上半期、９月末までの利用状況について御説明いたします。 貸出しについては、各館合わせまして今年度は９月末までで７１万冊余りでございます。前年度と比較するとわずかに少なくなっておりますが、下のほうに参考で別に上げております。これは、地域交流センター受け取り分と、移動図書館の受け取り分の貸し出しでございます。これは上のほうには入っておりませんので、これを合わせますと、昨年度よりわずかですが貸出数は伸びているという状

	況でございます。 それから、入館者数につきましては、合わせて６，０００人余り、昨年より多い状況でございます。 開館日数の違い等もございますので、１日平均にした数字を載せております。１日平均の入館者数については、中央図書館は減っておりますが、地域館では徳地・阿東は少し減っておりますが、ほかの地域館は増えております。 それから、１日平均の貸出数ですが、これについても中央図書館については前年度比で減っております。しかし、地域館については阿知須図書館がわずかに減っているところではございますが、ほかの館は前年度より増えております。 次に、夕涼みプラス２の結果について御報告いたします。これは、中央図書館のみですけれども、夏季、７月、８月について土日祝日の閉館時間を２時間繰り下げまして１９時までとしております。これは、２６年度、２７年度と試行で行ったわけですが、この結果について御説明いたします。 ７月、８月でこれを実際に該当したのは、２６年度は１９日間、２７年度も１９日間でございます。２カ月でこの日数です。実施場所は中央図書館です。 利用動向ですが、時間延長したんですが、これは全体の利用者数増加にはつながらなかったという結果になったと考えております。１日当たりの利用者数を入館者数、貸し出し者数でグラフにしておりますけれども、延長しなかった平成２５年度比で年々減少している状況でございます。 また、延長１年目の昨年度より、より周知が進んだはずの２年目の今年度ですが、昨年度よりさらに利用者数が減少している状況です。 それから、延長時間帯の利用者数でございますが、この延長時間帯の利用者数については２時間の延長時間帯に入館してくる利用者は、全体の７％強でございます。また、１９時以降の図書館利用者は新たに入館してくる人より１７時以前からの滞留者の方が多いという結果になっています。 実はこの点につきましては、５時以降の入館者数のカウント、それから利用者アンケートもしているのですが、そのアンケートの配布について中央図書館友の会トネリコの方に御協力をいただいております。 それで、この延長時間帯の利用者なんですが、その利用者アンケート、数字としては少ないわけなのですが、アンケートの結果を見ますと非常に好評であり、時間延長は大変いいことだという声がたくさんございました。 それから３点目、この時間延長で言えることは、既存の利用者の利用が平日から休日にシフトしたのではないかと考えております。実は４ページの上のほうに、土日祝日と平日別の入館者数のグラフを載せております。平日と土日祝日の利用動向を見ますと、平日の減少幅が大きく休日は減少幅が小さくなっております。ちなみに、貸し出しについては延長しなかった２５年度より土日祝日については増加しております。 ただし、全体としては減少しておりまして、これまで平日に利用していた人が

	時間延長した休日に利用をシフトしているということが考えられるんのではないかと考えております。 利用状況については以上なのですが、実施体制上の課題が３点、浮かび上がってまいりましたので、御報告いたします。 まず、１点目、とにかくカウンター業務に習熟した職員の増員がどうしても必要であるということが明確になったと思います。この勤務体制については、実は、平成２６年度については大学生を中心とした月数日の短期アルバイトの雇用で対応しております。ただ、カウンターに入ってもらったりしたのですが、少し、どうしても業務習熟が不十分なために、処理ミスが多発するということがございました。そういうことがございましたので、２年目についてはアルバイトの雇用はしたのですが、これは１０時までの朝の排架作業のみに特化した形でアルバイト雇用をいたしました。そうすることで、既存の職員の勤務を後ろにずらすというイメージで、カウンター業務の時間増に対応いたしました。 しかし、これは、考えてみれば当然なのですが、その延長時間のカウンター業務の対応のために、ほかの業務をする時間が減ってしまった訳です。 予約連絡や回送資料の処理、子供カウンターの業務などがあるのですが、カウンターローテーションを組んで職員を割り当てているわけなのですが、これらのカウンター以外の業務での割り当てのコマ数がどうしても減ってしまいまして、ローテーションを組むのに非常に困難を来したということがございました。 カウンター業務については、単純作業的な部分はあるのですが、どうしても一定の習熟が必要なことから、やはりどうしても短期アルバイトではなく、業務習熟に一定の期間が取れるような雇用形態での増員が必要であるということが、明確になったと考えております。 ２番目、情報共有困難化への対応が必要であります。開館時間が長くなることで、当然、勤務シフトをずらすということになります。そうすることで、実は職員間で共有する時間がどうしても減少してしまいます。顔を合わすということが非常に少なくなります。そのことで、特に、いわゆる口コミによる情報共有が非常に困難になったということは感じました。当然、必要な情報については、掲示等でするようにしたのですが、顔を合わせてのコミュニケーションというのがどうしても必要になる部分というのもございまして、この点、もし時間延長を継続するようであれば、さらなる工夫が必要ということが言えると思います。 どうしても図書館ということで、変則的な勤務体制になるわけですが、この情報共有にとっては図書館にとって非常に大きな課題であると考えております。 もう１つ、勤務シフトが後ろにずれる、つまり遅出勤務、夜が遅くなるということで、その職員の社会生活、特に家庭生活や地域活動等への影響があるという声も、一部の職員からはございました。これは職員の個人的な環境によってかなり違う部分があるかと思いますが、そういう声もあったということは事実でございます。

	それから、３点目、危機管理体制の再構築が必要であります。従前より、職員体制は１７時以降は７人で対応しております。これは、平日もそうでございます。この体制ではカウンター業務実施のみで手一杯であり、突発的な事象には対応しきれないという部分がございます。実は、最近、特に利用者や職員の安全に影響するような事案が出てきております。現在も、利用者の方で少し困った方もいらっしゃるということで、対応に苦慮している部分もございます。特に夕方・夜間の開館時間については、防犯面等からも体制強化の検討が必要だと考えております。 　この２番目の情報共有と３番目の危機管理体制については、実は時間延長をすることで以前からある課題がより明らかに、顕在化したということが言えると考えております。以上が、夕涼みプラス２の結果についての御報告でございます。 　次に、今年度の動きということで御説明したいと思います。 　今年度は新規事業として図書館活動推進事業というのを立ち上げております。いろいろな企画事業を積極的にやっているところでございます。第１回のときにも説明いたしましたが、５月５日には全６館で統一企画としてこどもワイワイ図書館というのを行っております。 　それから、これは中央で実施しておりますが、ウォーキング講座や山口歴史講座、山口歴史講座については、これまで講演会をしておりますし、これからもいろいろ行事を予定しておるとこでございます。 　それから、８月１日から試行で始めておりますが、山口大学図書館、山口県立大学図書館とお互いに返却箇所化しております。つまり、市立図書館の本を山大図書館と県立大学図書館で返せるようにしております。反対に、大学図書館の本を市立図書館にも返せるようにしております。 　それから、学校支援サービスについても、昨年度に引き続き積極的に行っているところでございます。学校図書館への配本、定期的な毎月の配本、それから積極的にブックトークに行ったりもしております。 　それから、図書館指導員の研修会に、中央図書館から２人の職員が参加して、講師という形で連携を取っているところでございます。 　学校教育課の指導主事の先生とも今年度は定期的に連絡を取って、連絡を密にしておるとこでございます。 　それから、前回の図書館協議会のときに、職員の研修状況について御指摘があったかと思います。特に、非常勤職員の研修について御指摘があったかと思いますが、今年度の上半期の実績を５ページに載せております。 　各種の研修に職員を派遣していますが、どうしても県外等になりますと正規職員中心ということになるんですが、県立図書館で行っておられる研修会には、今年度は嘱託職員の方、臨時職員の方も派遣をしているところでございます。 　資料の補修講座が県立図書館でありましたが、こういうのに臨時職員の方が参加しておりますし、県の図書館協会の児童書研究部会の研修には中央図書館の嘱

	託職員が参加しております。 　また、１２月、１月にも県立図書館で研修が行われますが、これにも複数の者が参加することになっております。 　それから、昨年度、総務省派遣の地域情報化アドバイザーの岡本真という方を招聘いたしまして、アドバイスをいただいております。また、今年度も岡本さんに来ていただいております。既に１回来ていただいており、あと２回、来ていただく予定にしています。昨年度はデジタル化に関することでアドバイスをいただいたのですが、今年度については、特に行政議会対象情報提供サービス充実という観点から、それもＩＣＴを活用したということで、デジタル化とも絡める形でアドバイスをいただいております。 　それから、今年度、選書体制について少し変えております。司書資格を持つ職員を中心に選書委員会を構成しているのですが、各職員ごとに担当分野を決めまして、その担当分野の選書に責任を持つという体制で選書を行っております。 　それと合わせて、除籍についても本格的に取り組んでおり、選書委員会と同じメンバーで除籍委員会を構成いたしまして、毎月、定期的に除籍の検討を行っています。 　それから、中山間地読書推進モデルの形成ということで、これは特に阿東図書館と関係が深くなるのですが、これは、来年度に向けた部分もあるのですが、中山間地での読書推進活動と配本の仕組み、具体的には交流センターの分館を配本の場所にするという方向で検討を進めているところです。これについては、実は移動図書館も活用できないかということで、テスト試行を検討しているところでございます。全体的には、以上のような状況でございます。 　それでは、各中央館、各地域館の状況について、各館長より報告をさせていただきたいと思います。 **〇事務局（中央図書館館長同格）** 　それでは、中央図書館の本年度の主な取り組みについて、御説明いたします。 　第１回協議会で御説明した５月５日の子供ワイワイ図書館以降の主な取り組みについて御説明いたします。 　まず、６月５日には健康増進課・YCAMと連携いたしまして、図書館でウォーキングを学ぼうと題しまして、図書館内で健康づくりの講演会を開催いたしております。この講演会に合わせまして、食と運動に関する豆知識の紹介と、関連図書の企画展示を行い、健康に関するおすすめ本のＰＲを行うとともに、図書館内見学もしていただきまして、多くの市民に図書館サービスの活用方法を紹介いたしております。 　次に１０月２４日、土曜日ですが、山口発幕末小説人気番付の企画で第９位になりました、「吉田松陰『留魂録』外伝遥かなり三宅島」の著者でございます、永冨明郎様の講演会を開催いたしております。当日は１００人定員のYCAMスタジオＣの会場が満員となりまして、盛況でございました。この企画によりまして、多

	くの市民の方に明治維新１５０年に向けて、ふるさと山口の歴史を学ぶきっかけづくりと、図書館利用についての御案内を行っております。 　そして、今後の主な取り組みといたしましては、来月１１月２１日土曜日には第１２回山口市立中央図書館まつりを山口情報芸術センターと中央公園のスペースも利用いたしまして開催いたします。お祭りでは、著名な絵本作家でございます本田哲也さんの絵本原画展や、多くの市民を集めるブックリサイクル、市民にお馴染みとなった規格である、おはなし広場や中央図書館を探検しよう、点字体験、対面朗読体験、移動図書館ぶっくんに乗ってみよう、子供スタンプラリーを開催いたします。 　また、当日、山口歴史講座「大村益次郎と豆腐料理」という講演会を歴史民俗資料館と連携して開催いたし、大村益次郎の大好物であった明治時代の豆腐を再現した豆腐屋さんのお話と、豆腐の試食を計画いたしております。 　次に、１１月１６日月曜日から毎週月曜日に５日間に分けて、山口歴史講座上映会、「花神」を行います。これは、１９７７年に公開された大河ドラマ「花神」総集編の上映会でございます。定員１００名に対しまして、これはもう締め切っているのですが、１９０名という多くの応募をいただきました。 　そして、１２月６日、日曜日、YCAM　スタジオＡにおいて、「大村益次郎～花神ふたたび～」というテーマで、市民にとても人気のある松前了嗣さんの講演会を開催いたします。 　当日は４００名規模で多くの市民が来られることを期待しておりますので、図書館利用のきっかけづくりとなるよう、企画展示コーナーや新規の図書館利用カード登録コーナーを設けて、図書館活用を市民にＰＲしたいと思います。 　この企画は４００名定員でございますので、まだ当日来られても余裕があると思いますので、ぜひ皆様も時間がございましたら、ぜひ御参加いただきたいと思っております。 　そして、来年１月は、これは恒例となりました女性起業セミナー、図書館で夢を叶えてみませんかという企画でございます。これは、今年で３回目となりますが、日本政策金融公庫と市の商工振興課との連携企画となります。女性の起業家に対するビジネス支援という立場で企画を設けようと思っております。中央図書館から主な取り組みは以上でございます。 **〇事務局（小郡図書館長）** 　小郡図書館です。先ほど申されましたように、貸出件数、入館者数とも２６年度に比べ若干増加傾向にあるという状況でございます。前期の行事の概要でございますが、まず、図書館友の会、鉢の子の主催による、各種講座を随時行なっていただいているところでございます。それと、今年度、プロジェクターとスクリーンを小郡図書館に配備していただきましたので、夏休みの子供向け上映会を７月に開催したところでございます。 　また、図書の修理・製本ということで、市立図書館の職員、また学校図書館の

職員の関係者の皆様に、図書の修理・製本の技術を学んでいただこうということで、９月に講習会を小郡図書館で開催をいたしていただいております。また、一般的な行事といたしまして、おはなし会の開催と折り紙教室を開催しておりますが、おはなし会はみんなのおはなし会、４歳以上からのおはなし会、赤ちゃんのためのおはなし会の３つ、あと折り紙教室ということで４つの事業を毎月水曜日のそれぞれの週に開催をいたしております。

前回の協議会の中で開催時間、開催点、御質問がございましたが、特にみんなのおはなし会と４歳からのお話会、折り紙教室については小学生からも参加をできるだけあったほうがいいだろうということで、水曜日の１５時４０分からという開催をしております。これは従来からそういう形にしておりますので、よりこの開会時間を徹底することで、より多くの子供さんに参加をしていただいたらと考えているところでございます。

赤ちゃんのためのおはなし会につきましては、午前中がいいだろうということで１１時から開会をしておりまして、今年もたくさんの親子の皆さんに参加していただいているという状況でございます。

次に、資料展示の実施についてでございますが、一般向け、子供向けの展示ということで企画展示を毎月１点という形で実施をさせていただいております。

また、ことしからは閉架書庫の活用ということで、季節に応じた企画展示ということで、春夏秋冬、春、夏、秋、冬で、特にその季節だけを捉えるような本をピックアップして、展示をすることで、その本の稼働率を高めようという形で展示を企画しているところでございます。

最後に、職場体験についてですが、県内中学校から３校、高等学校から４校、総合支援学校から１校で各１名、２名ないし２名の職場体験をしていただいております。また、施設見学として、小郡南小学校から８０名の見学があります。また１１月には小郡小学校から２年生の７０名程度が施設に来られるということになっておりますので、またいろいろな説明をしてまいりたいと考えております。

小郡図書館からは以上でございます。

○事務局（秋穂図書館長）

続きまして、秋穂図書館から御紹介させていただきます。

秋穂図書館も本年度は若干ではございますが、貸出点数等が増えている状況でございます。

何で増えたかということにつきましては、きちんと分析しているわけではございませんが、カウンターから見ておりますと、子供連れの方が増えたのではないかなと思っております。

行事につきましては、図書館と友の会と図書館とで行事を行ってきております。４月の図書館の職員と市民の交流広場を最初に、６月、７月とやってきております。８月１日に第５回の秋穂図書館まつりを行っております。今年は、ちょうど世界ジャンボリーがその期間にございまして、当日、秋穂の交流センターはジャ

ンボリーの秋穂に来られた子供たちの中継地点になっておったこともありまして、かなりの外国の子供さんが来られまして、ちょうど図書館まつりの中にも入っていただきまして、国際交流もできたのではないかと思っております。

その外国の子供たちも図書館のほうにも入ってまいりましたが、入館者数、当日の利用者数も昨年より２００人あまりもふえておりまして、１，０００人を超えた状況で、1，１５８人の方が図書館まつりのときに図書館に来られたという格好になっております。

当日のまつりの内容につきましては、お手元の資料で見ていただけたらと思います。

それから、今年は秋穂図書館開館５周年記念ということで８月の８日、９日に５周年記念の上映会、「疎開した４０万冊の図書」ということで、交流センターで上映会を行い、合わせて関連パネルの展示会も８月４日から１６日まで行っております。上映会に来られた方は合計で４２人ではございましたが、来られた方には大変好評であったと思っております。

それから、８月２３日も開館５周年記念ということで、毛利愛好会の代表の石川先生の講演をしていただきました。明治維新から１５０年ということで、来られた方にはかなり好評で、もう１回やって欲しいという声も上がっている状況でございました。

それから、１０月１２日にリブリオバトル秋穂ということで、２回目のリブリオバトルを開いたわけでございますが、ＮＨＫでは少し宣伝をしていただきましたが、なかなかお客さんに来ていただけないという状況もございましたが、来られた方からは好評でございました。

それから、開館５周年になりますが、開館以来、毎月おはなし会を開いて、子供向けの話を第１木曜日と第３木曜日にやってきております。

それから、友の会の主催ではございますが、毎週第３金曜日のおしゃべりサロン、それからおはなし玉手箱の定例会（勉強会）を第１土曜日、それから館外でのおはなし会を第２と第４水曜日、また２小学校への読み聞かせボランティアをずっと継続してやってきているところでございます。秋穂図書館からは、以上でございます。

〇事務局（阿知須図書館）

続きまして、阿知須図書館から御説明を申し上げます。

まず、入館者数と貸出冊数等の件ですが、入館者数は昨年度より若干ですが増加しております。どうして伸びたかということを考えますと、本年度は7月から８月、夏休み期間中ではございますけれど、毎週水曜日と日曜日に上映会を開催しております。その関係で、子供さんがたくさん入館され、入館者数が伸びた訳ですが、若干、貸出冊数につきましては減っております。今後、また新しい本を取り入れて、貸出に関しましては増加させていきたいと考えております。

それと、今年度行事でございますけれど、６月には各小学校、阿知須小学校、

	井関小学校、阿知須中学校の図書の担当の先生方をお招きして、図書館連絡会議、これを開催しております。この中で利用状況なり、また学校から図書館へのお願いなどを伺っております。 それから、この９月には図書館祭り等に向けてのボランティア会議ということを行っております。 それと、絵本の読み聞かせをボランティアさんに毎月１回お願いしております。 それから、図書館を広く利用していただこうということで、皆さん御存じのように阿知須図書館におきましては、展示ロビーを展示会場といたしまして、絵画展であるとかスケッチ展、写真展などを毎月開催しております。今後は水彩画、貼り絵の展示を予定しているところでございます。 それと、ちょうど阿知須図書館は保育園のそばにございますので、保育園への働きかけということで、読み聞かせの大切さをお母さん方に働きかけていこうということで、１１月２６日を第１回ということで予定しております。説明を行ってみたいと考えております。 それと、１１月３日には図書館まつりがございます。これにつきましては、お手元のほうにはパンフレットをお配りしているかと思いますので、ご覧いただければと思いますが、本年度、目玉といたしまして、図書館と言いますと、どうしても静かなところで読書をやると思いますが、文化に少しでも触れていただこうということで、リコーダーの方とそれと三味線、これを図書館の中で開催したいということで、もし皆さん方の中でお時間の許す方がいらっしゃいましたら、午後予定しておりますので、ぜひ聞きに来ていただければと考えております。 以上で終わります。 **〇事務局（徳地図書館長）** 徳地図書館のこれまでの取組み報告ですが、前回の協議会でもお示ししたように、本年度は昨年度に引き続き、子ども達を対象とした「図書館リテラシーの涵養」と「読書活動推進」および今年度から特に高齢者を対象とした読書活動推進に力を入れて活動しています。 その中で、４月から徳地総合支所での所内会議へ図書館の参加を求められました。これにより地域づくりへの関与というのが可能になったのではないかと考えています。具体的には目下のところ情報提供が主ですが、そのような中で１２月７日に開催される健康増進課所管の高齢者向け行事「語る会」へ図書館長として参加要請を受けております。 所内会議に出席して実際に協議に携わると、総合支所の各部局で行う行政施策に比して、図書館は住民生活への直接的関与度という面では「薄い」という印象です。しかし、先ごろも旧町時代の情報資料の提供などを行っており、図書館なりの関与の方法を考えながら、地域の一員としての図書館のスタンスを少しずつ組み立てていけたらと思っています。 次に子ども達の情報リテラシーの涵養と読書活動の推進につきましては、おは

	なし会の定期的開催、小学校高学年を対象として図書館業務体験行事である「図書館探検隊」の開催、図書館見学や中学生の職場体験の受入れを行っております。また幼児向けにはブックスタート体験会を総合支所で行う幼児健康相談に併せて実施しています。 　また徳地地域で子ども達を含め様々な世代を対象に読み聞かせ活動を行っている「おいしいおかゆの会」と連携して、読み聞かせに資するための「ストーリーテリング講座」を実施いたしました。 　さらに今年から、隣接する中央小学校と連携して、小学生を対象とした本の朗読とブックトークを行っています。回数も２回目となり、本の朗読と紹介を通じて、子ども達の読書への関心拡大に努めていきたいと思っています。 　それから、前回の協議会で提言をいただきました「高齢者向け資料の充実」について、資料の選書にあたっては、特に高齢者向け資料に留意しながら行うとともに、館所蔵資料を順次、再確認しながら高齢者向けとなるものを選んでお示ししているところです。 　併せて、高齢者を対象とした読書活動推進として、徳地域内に複数あるデイサービス施設での本の朗読およびブックトークを順次行っています。これは施設側からの図書館への要請もあり、また高齢者への読み聞かせ活動は、先ほど紹介いたしました「おいしいおかゆの会」がすでに先達して行っていますので、これに加わるかたちで比較的スムーズに実施できました。今後、域内にある他の同様施設にも活動の場を広げていければと考えています。読書活動推進以外には、７月には徳地健康サロンが館内視聴覚室で定例会でのDVD上映会を開催された事例もあります。今後も同様の利用があると考えます。 　終わりに前半期のトピックとして２件報告をいたします。 １つは、徳地八坂地区で営農の傍ら、短歌創作をされ、「徳地町史」に記述はあるものの一般には殆ど知られていない歌人について関心をもたれた大阪在住の研究者の方から図書館に短歌集の所蔵の有無について照会をいただいたことが契機で、現地調査のためのアレンジを行いました。 　歌人本人はすでに故人となられていますが、御子息が八坂に住んでおられ、お宅に残っている数々の資料を提示していただいたところです。調査後、研究者の方からは、将来的には何らかの形で発表したいという言葉をいただいています。また短歌関係のみならず、今回の調査で判明した従軍記などの関連資料については、昭和初期の一般生活史の貴重な資料であるとして「何らかの保存を手立てを講じられたほうが良い」という助言もありました。今回は保存については十分なことはできませんでしたが、今後、研究がまとまって公にされ、「ある程度、評価が定まった時点」で、保存していく方向で進めていきたいと思っています。 　もう１つは、上半期を通じて中国から技術研究生として徳地に来られた方の来館がありました。市内には結構、中国出身の方がおられますが、多く相対するのは留学生の方々で、日本語による会話が可能です。しかし、この方の場合、中国

	語のみしか話せないため、通信手段など生活面で問題を抱え、困られた中で図書館に相談に来られた次第でした。 語学的には十分でない中で会話をしながら、生活支援プラス読書や図書館の紹介を行いました。生活支援については県国際交流協会へ結びつけができ、協会の尽力で解決の目処が立ちました。山口の中にも中国語しか話せない方がいらっしゃるということは正直、驚きでした。 また、読書紹介のために中国語の本についての情報を求めた際、中国人が利用できる本が意外に少ない事にも驚きました。市立図書館には所蔵はなく、県立図書館に綿矢リサや村上春樹の作品の翻訳が数冊あるだけでした。それでも県立図書館の担当者の方からは、希望があれば準備するとのことでした。 これまで、多文化サービスについては事例がなかったのですが、今回の状況を踏まえ、次回来館に備えておければと考えています。以上です。 **〇事務局（阿東図書館長）** それでは、阿東図書館から説明いたします。 利用者等につきましては、利用者が固定化されてきているのではと考えてきているところでございます。 開館して２年めでございますが、図書館を知ってもらうことを心がけて図書館まつりを開催してまいりました。 また、今年度につきましては、地元で活躍している方の展示を主にやっております。 それから、今年度、図書館でやっていいかどうかちょっと迷ったところなのですけれども、タブレット端末を使って読書をやろうということで参加を集めてきております。結構、皆さんから好評でございました。 それから、１１月６日に読み聞かせ講座を開催いたします。これは、主に家庭の皆様に勉強していただくということを思っております。 それから、先ほどから中山間地読書推進モデルということで、阿東地区もということでございます。阿東図書館は、津和野のほうに近いということがありまして、阿東地区全体で言いますと、端っこにございます。ある方から、年金等々の受け取りに各地区の分館近くまでは行くのだけれども、なかなか阿東図書館には行かれないという御意見がございました。 阿東図書館はできたばかりで、蔵書数も４万点近くありますので、ぜひ利用したいのだけれどということがございました。高齢化率は嘉年地区は６５歳以上が６割ございますし、阿東地区全体としても５割以上が６５歳以上であり、高齢化率が高いという現状もございます。こういう方に何とか利用していただきたいということで、分館で予約をして、阿東図書館へファックスを送っていただいて、それから、その後、本を届けることができ、貸出と返却ができたらと協議をしているところでございます。実績はどの位上がるかどうかという所ですが、今から周知をしておこうと考えている所でございます。以上です。

〇事務局

それでは、事務局からは以上でございます。

〇会長

どうもありがとうございました。それでは、報告がいろいろありまして、利用状況、夕涼みプラス２、今年度の動きということでございました。どこからでも結構ですので、お願いいたします。

〇委員

先日、１０月２４日の講演会は、とても熱心な方がたくさんいらして良かったと思うのですが、その後、その日に行っていた人と雑談していたら、公演後に話をする場所がないという話がありました。そういう雑談のコーナーというか、講師の先生が許されるのなら、一緒に講師を囲んでの雑談コーナーができないかなという声がありました。

例えば島根県でも県図書カフェとかいうのがあります。これも主催は別で図書館ではないらしいのです。島根の場合は自分の本を紹介し合うのではない、ビブリオバトルではないですけど、それを話題にしてというようなことらしいです。

鯖江市は明らかに講師の話を聞いた後での意見交換会をするような場を作っています。

それと、今、高齢者の中にもあったのですが、以前、秋穂図書館に行っておりましたら、高齢の御婦人方がたくさんいらっしゃいました。どうしたのかと思っていたら、軽費老人ホームの職員が車で連れて来られて、自分で本を選ぶという、そういうことがとてもいいと思いました。その時に、本は借りないのですが、しっかりと滞在期間中に見て帰るという方がいらっしゃいました。

〇会長

ありがとうございます。ほかに何かございますか。次の委員の方どうぞ。

〇委員

関連していうと、私もずっと読み聞かせをやってきて、市内の幼稚園でお母さん方に絵本読み聞かせ講座をさせていただいているのですが、お母さんの中では、すごく積極的に質問して下さったりするのですが、また、ブックスタートにも行っているのですが、そこで必ず私が、図書館を利用されたことがありますかと聞くのです。その時にないと言う方がかなり多いですね。せっかくですから、今日借りてみて下さいねと言います。お子さんがいらっしゃると借りるのはいいのですが、返しに行く足がなかなか難しいということです。よく友達のお母さんからも聞いていたので、ブックポストでの対応を教えたり、そんなことをボランティアがてらやっております。そうすると、そんなことができるのですかと、皆さんおっしゃるのです。借りたのはいいけど、返しに行く時間帯にお昼寝してしまっていたらどうしよう、間に合わなくてと思うと、つい借りに行く足も少し渋ってしまうところがあったりするようで、やはり、普段読まない方にこそ読んで欲しいということがあるので、ブックスタートのときに、普段図書館と接する機会の

少ない方とコミュニケーションをよくとって、図書館に行ってもらうことも、わかっていただけたらいいなと思います。

今の高齢者の話ですが、３年ほど前からだと思うのですが、佐波高校の生徒たちが、老人ホーム訪問で慰問に行くときに読み聞かせをしたいので、その方法を教えてもらえますかといわれたことがあり、講師で行ったことがあります。

例えば、今、介護を学んでいる高校生とかは、すごくたくさんいらっしゃると思うので、そういうところに例えば図書館職員が出向いて行って、読み聞かせの指導とかブックトークの仕方、そういうことを講座として開かれるということも、学校支援の１つとしたらどうでしょうか。高校になると県立が多いのでなかなか難しいかもしれませんが、そういう、全体的な年齢層への働きかけも少し考えていただければいいのかなと思います。

〇会長

ありがとうございます。今、民間の方のボランティアのところにお話が来ている状況ですが、本当ならば、市立図書館とかでは人員の問題とかもあるかと思いますが、きちっと専門性のある職員が必ず出かけていくのが筋で、市がもう少し専門性というものを追求して欲しいと今のお話を伺って思いました。

次の委員からどうぞ。

〇委員

私が、各図書館の上半期の利用実績を数字で見る限りにおいては、まず、微増微減という感じで、数パーセント伸び、あるいは数パーセントの落ち込みというようなものが伺えたのですが、それぞれの図書館からデータを手に入れればよかったのですが、当然、開館した直後はすごく利用が上がるというのは、スーパーと同じで、どこでも新しいうちがすごく利用が上がるのですね。それなりに古びてきますと、低成長の時代に入るというか、マイナスに入るというようなことをどのような施設でも繰り返していると思うのですね。

それが、この微減というかほんの少しずつ減っているのが、でも今回はトータルとしてはどちらかとしたら微増のほうに落ち着いているようなのですが、全体としてこの１０年間位でどのくらい落ち込んでいるのかと調べてくればいいのですが、私は数字のほうを見て来なかったものですから、そう思いました。

それでは全国的にも恐らく貸出数というのは落ちているのかどうなのか。そのあたりについて、もし御研究しているのなら、そのあたりのお話を少ししていただいて、では、山口市は今後、日本一本を読むまちということで、何か行っているようなのですが、それについて差し支えなければお聞かせください。

例えば、移動図書館とかが明らかに１割近く増えているわけで、いろいろな努力をなさっている数字が、入館者と貸出数との合計でいいのだろうかという気もしています。学校支援とかさまざまな努力をしていらっしゃるし、その結果において、利用が別の形で現れたり、利用者の方の声がすごく効果もあると思いますので、年間を通してまた年報とかをお出しになるときは、そのあたりのことも含

	めて全体的な増減のコメントを出していただけたらいいのかなと思っております。 **○事務局** 全国的な傾向でございます。日本の図書館という統計書では、全国の図書館は３，２００以上ありますが、貸出点数は２，０１１年から毎年減ってきておりまして、２０１３年から２０１４年にかけては２％少々と大きく減ってきております。 しかし、本市では貸出点数は若干減ってきておりますが、指標動向はほぼ横ばいであると評価をいたしております。人口も若干減ってきており、本市の市民１人当たりの１年間の貸出冊数は７．５点でございますので、全国の平均が５点台でございますが、本市は７．５点で２年連続横ばいとなっている現状がございます。 本市では、図書館サービス計画では、中核市で一番本を読むまちを目標といたしまして日本一を目指しておりますので、中核市の前々年度の最高が９点台だったのですが、前年は落ちてきており８．９点の中核市がトップでございます。もちろん、中核市以外の市で図書館サービスに力を入れているところはございますが、貸出点数という面では全国の平均より２点台以上高く、成果指標では評価をされている現状がございます。 昨年度、図書館システムの更新を１０月にいたしており、利用者の利便性を向上させております。これにより図書館のホームページ上で、初めて本の表紙の書影を見れるようになりました。それより、例えば、市民で吉敷地区にお住まいの方から、今までは中央図書館に出向いて行って本を確認し、読みたい本を探して借りて帰り、また中央図書館に返しに行っていたのですが、昨年度のホームページの更新後は、家から図書館ホームページ上で本の表紙や内容を確認して予約をかけ、それを吉敷の地域交流センターを指定して受け取るようになり、とても助かっているというお話も届いております。自宅から図書館ホームページ上で、本の表紙や内容等もわかるようになりましたので、日本一本を読むまちを目指して図書館サービスの利便性を向上していくことで、今度は逆に入館者が減って貸出が増加することも考えられるになりました。 また、移動図書館業務でございますが、一昨年までの３３か所のアクセスポイントから昨年度、本年度と３６カ所までアクセスポイントを増やしてきております。来年度についてはサービス計画の４０カ所を目指してアクセスポイントをどう増やしていくかは、今、検討しているところでございます。図書館のホームページ上から予約をかけることで移動図書館でも受け取ることが出来ますし、また移動図書館で返すことができることも臨時運行等でPRしたことにより利用者に浸透してきましたので、移動図書館の利用が増加しているのではと考えております。 **○事務局** 数字の点については資料の中でお示ししてなくて申しわけないのですが、本市の傾向について手元に資料がございますので、お知らせいたします。 市立図書館全体で見ますと、貸出しにつきましては平成１９年度から平成２３

年度までは一貫して増加しております。平成２３年度をピークに、２４、２５、２６年度と減っております。これは、増加したのは小郡図書館、秋穂図書館の開館ということが非常に要因としては大きいと思われます。

それから、館別で見ますと、中央図書館については、一貫して開館以降減少傾向でございます。平成２３年度が少し伸びているのですが、実は、この年は、県立図書館が数カ月間施設工事で閉館いたしまして、その影響かと思います。

それから、小郡図書館についてはほぼ一貫して減少傾向でございます。

それから、秋穂図書館につきましては、平成２２年度開館で２３年度をピークに減少傾向にあったのですが、２６年度は増加しております。

阿知須図書館につきましてはほぼ横ばいなのですが、２５、２６年度とわずかながら増加傾向にあります。

それから、徳地図書館についてもわずかながら減少傾向だったのですが、２６年度はわずかですが増加しております。

阿東図書館につきましては、平成２５年の８月に新しくなっておりますが、当然のことながら２６年度まで開館後は伸びております。

まとめますと、中央図書館については減少傾向が今年度も続いているのですが、地域図書館については特に昨年、今年と利用者の増加の傾向が見られるかなということでございます。ある意味どこでも借りられる、どこでも返せるという事が浸透した部分があるのかなという分析はいたしております。以上でございます。

○会長

ありがとうございます。

○事務局（中央図書館長）

委員の提案の御趣旨が、もっと統計資料を充実させて、分析の上で活動に反映して下さいという意味だったと思っております。早いものでサービス計画もあと２年で満了いたします。次は平成３０年からの新しいサービス計画をつくります上でも、今の委員のおっしゃったとおり、数字的な分析も必要になってくると思います。

現在、皆様に御報告をさせていただいている概要でございますが、非常に不親切な概要でございまして、委員のいわれるような数字になっておりませんので、来年の概要についてはもっと詳しい内容を出していくように指示を出しております。

それと、それまでこの１０年間で小郡、秋穂、阿東図書館と、新しい図書館をつくってまいりましたので、なかなか傾向として出てこないところがございました。来年、新しい統計数値を出すに当たりましては、その辺のところを今度は正しく分析できるような形になろうかと思いますので、統計担当に期待を私もしておりますので、よろしくお願いいたします。

○会長

やはり、前の年度だけ比較されても、微増微減と言われても、全体が見えてい

	ないので、学校支援とか、いろいろ行っていらっしゃるので、もっと全体を見て欲しいと思います。では、次の委員の方どうぞ。 **〇委員** 　図書館の利用者を増やす努力をされているなと、本当に思いました。 　また、図書館にも関心を持つように、図書館まつりでもいろいろ多彩な事業を計画をされているのにも驚いております。カレーとかを食べる企画とか、そういうのも驚いています。 　それと、夕涼みプラス２については、いろいろ問題点もあるのですが、一応、来年もこういう形でやられるのでしょうか。 **〇会長** 　夕涼みプラス２は、続けられると思われていますが、どうでしょうか。 **〇事務局（中央図書館長）** 　アンケートの中では、利用された方はぜひ続けてくれとおっしゃっているのですけど。 **〇会長** 　でも、１日７人ですよね。 **〇事務局（中央図書館長）** 　それも少数ということなので、費用対効果と言ったら語弊がありますが、同じお金をかけるのだったら、違う方向もあるかなというように私たちも捉えております。 　まだ、結論は出していないのですが、来年度の予算を組むまでに、来年も実施するのか、ほかの方法で努力するのかというところは、また皆さんのほうへ結論を出した結果についてはお知らせをさせていただこうと思います。 **〇委員** 　この機会に来られた人だけのアンケートなのですよね。 **〇事務局（中央図書館長）** 　そうです。 **〇委員** 　一般の全体の人がその必要を感じるのかどうかですね。 **〇事務局（中央図書館長）** 　２年間やってそこを分析しますと、図書館を御利用いただいている方のほとんどが館内で表示を見て、ああ２時間追加でやるのはわかったと。だけど、要するに宣伝が足りないのではというように皆さんがおっしゃっているのですが、市報に出したりいろいろな機会を捉えて広報はしたのですが、ほとんどの方は来られる方が館内で知ったという方が多いのです。その中で、図書館を御利用いただいている中でもプラス２時間の御利用が少ないということは、やっぱりやっている意味があったのかなという気持ちはございます。 **〇会長**

あと、私もそこに２時間おりましたけれども、なぜだかちょうどお祭りの頃で、浴衣を着たカップルがデートコースのようにやって来て、この子たちは何しに来たかな、何か不思議な空間でもあったかなと思っております。結論はもう少し考えていただいて、もしかしたら、ほかの形のものに変わっていくかも知れないということですね。それでは次の委員の方どうぞ。

〇委員

ここにパンフレットありますが、大村益次郎の絵がかわいいですね。この山口歴史講座は何回目ですか。

〇事務局

今年３回目の企画です。取組は２年目となります。来年もまた続けていきたいと思っております。

〇委員

３回やるということではなくて、そのたびごとの講演なのですね。

〇事務局

そうです。ことしは大村益次郎にスポットを当てていくというのは、歴史民俗資料館とコラボレーションしてやっています。

歴史民俗資料館は、暮れには大村益次郎の特別キャンペーンをやっております。その辺もございますし、来年は四境戦争１５０年というところもございまして、そこで活躍しました大村益次郎に、本年はスポットを当ててやっております。

ちなみに、昨年は「花燃ゆ」関係のこともございましたので、山本栄一郎先生にはそういう山口御殿と言われたところ、その辺のお話、「花燃ゆ」に関するお話を。また、松前了嗣さんには高杉晋作について御講演をしていただきました。そして、図書館のほうではそれに関する吉田松陰と高杉晋作の関係を描きました上映会と、あと「長州ファイブ」の上映会を含めてやったということでございます。

〇委員

図書館がこういうように別のほうまで足を伸ばされていることはとても素晴らしいなと思っております。また、入館者が増えるのではないかなと思っておりますので、大いに拍手を送ります。

〇事務局

ありがとうございます。

〇会長

次の委員の方どうぞお願いします。

〇委員

来館者数にこだわらないとおっしゃっていただき少し安心したのですが、私も本はとても好きですし、よく図書館を利用しているのですけど、時間をかけて選んで、借りて戻してということが難しい世代です。そうなると、やはりホームページを利用して予約をして、お知らせいただいたときには、本当にぱっと入館してぱっと帰るという、そういう生活なので、予約システムはとても助かっていま

す。

難を言えば、ホームページが少し使いにくいのかなと思うのです。本当に小さい子どもから大人、御高齢の方までが簡単に検索できて、簡単に予約できるようなホームページになるといいのにと思います。

ホームページで、私は何回も間違って、予約したつもりだったのができていないことがありました。最後にもう１回確認がいりますよね。

〇事務局

最後にもう１回確認をしないとだめです。

〇委員

私はその確認を忘れてしまっていて、予約できていなかったことがあったので、そういう方がほかにもいらっしゃるのではないかなと思っています。

それと、学校図書館も今、市立図書館の方や県立図書館の方にも来ていただきながら、図書室自体もリニューアルして、学校の中で来館者数を増やしたり、利用者数を増やすというところまでいっているのですが、そのポイントは、やはり行きたくなる楽しい感じです。申し訳ないですが、市立図書館は少し暗くて、入ったときに、何かわくわくしないのですよね。本を大事にするために照明が抑えてある、落ち着いた気持ちにするのはわからないではないのですが。

私は本を借りるために図書館を利用しますけど、学生の頃は勉強をしに行っていました。あるときから県立図書館が一切学生の勉強禁止ということで締め出しにかかり、学校に通達が来たりしたのですよね。そんなふうに市立図書館に学生が行って、多分、うちの学校の子どももいろいろ御迷惑をかけているのだと思うのですが、でも、学生のときに図書館を利用させてもらっていて、ちょっと大人になって余裕ができたときに、なじんでいた図書館に今度は本を借りに行くというような、そういう流れも大事かなと思うので、学生が勉強しに行っていても肩身が狭くないような、何か十分に勉強できるスペースがあるとうれしいなと思っています。

〇会長

ありがとうございます。確かに雨の日とか夕方から行くと、暗い気持ちになります。でも、あれでも明るくなったのです。最初は今、雑誌が置いてあるところなんか暗かったです。しかし、明るさというのは視覚的な、照明の問題だけではなくて、ほかの要素だってというところでしょうけれども、ほかの図書館にはない部分があるので、なかなかこれは超えられない部分もあるかなと思いますが、少し御検討いただければと思います。では、次の委員の方どうぞ。

〇委員

図書館とは関係ないのですが、読み聞かせとかそういうやり方を教えて下さるところはないのですか。

〇委員

路傍塾がありますよ。

	○会長 県立大がやっているのがあるのですが、講師はほかの方にお願いしております。本当はちょっと母体と違いますよね。県立図書館の子ども読書支援センターあたりはどうでしょうか。外部の講師の方をお呼びしてやってらっしゃるのでは。 **○委員** 県立図書館のホームページをご覧になると、子ども読書支援センターというのがあります。それには、県や市町村がやる分も情報として上がってまいります。 **○会長** それとか、メーリングリストをすると、自然と来ますけれどもね。 **○委員** そうなのですね。わかりました。 **○会長** 是非、それも御活用いただければ。市立図書館にも期待しております。 **○事務局** 市立図書館でも今年は２回、読み聞かせ講座を予定しておりまして、阿東図書館で１回と中央図書館で１回予定しております。１１月か、１２月、来年１月ぐらいに中央図書館でやる予定としております。それも御活用下さい。 **○会長** それは講師の方は市立図書館の方ですか。 **○事務局** 今回の講師は中村佳恵委員さんです。 **○会長** わかりました。是非、職員の方にもよろしくお願いします。最後になりましたが次の委員からよろしくお願いします。 **○委員** テレビを見ていたら、子供の貧困と肥満はたくさん目にするのですが、それともう１つ気になったのが、栄養と教養というのが気になりますね。 栄養がたっぷりの子供は多いですが、でも、教養はどうなのでしょうか。ブックビタミンというか、そういうのもいろんなところで食べて欲しいなと思います。 **○会長** ありがとうございます。大体皆さんに発言していただきました。時間になりましたけれども、次回は３月位の開催と思うんですが、そのときには１年間のことを説明して下さると思いますけれども、いろんな試みをされたり、試験的になさっていることもあるので、その検証もあるのかなと思っております。 それでは、事務局から何かございますか。 **○事務局** この図書館協議会については次回は３月にもう１回予定しております。特に諮問事項が臨時になければ３月まではないということになると思います。

	３月には翌年度の予算も固まっておると思いますので、翌年度の予定等をお知らせすることができると思います。 **〇会長** それでは、第２回の山口市立中央図書館協議会を終了させていただきます。どうもお疲れさまでした。
	山口市立中央図書館 TEL ０８３－９０１－１０４０